

人権のまちひの

2011年2月

ドキュメントリポート

『セルプひの』 田子所長さんに聞きました

知的な障がいのある皆さんが、生活や心のよりどころとして互いに励まし、活動されている根雨の知的障がい者通所授産施設『セルプひの』を訪ね、田子所長さんからお話を聞くことができました。



▲『セルプひの』田子功司所長
(うどん屋：どんぐりCOROCOROにて)

記者 今日は貴重な時間をいただきありがとうございます。早速ですが、「セルプひの」とはどんな意味があるのですか？そのあたりからお聞かせいただけますか。

田子 英語の Self-help 「自助・

自立」から作られた「セルプ」と、日野町の「ひの」をくっつけて命名した知的障がいのある方の通所授産施設で、自分なりの働き方で社会に貢献しながら生活を作り出す「自立」を目指しています。

記者 そうなんですか。そのような願いが込められているんですね。ところで、その「セルプひの」を開設されるにはご苦労もあったと思うのですが。

田子 平成15年4月に「わかとり作業所日野分場」として開所し、平成17年4月に独立した施設として、現在の「セルプひの」を再スタートしました。私はこの年の12月に所長として着任しましたが、おかげさまで昨年4月には5周年記念式典を開催し、関係者をはじめ、多くの皆さまにもお祝いにお越しいただきました。大変うれしく思っています。また、平成20年11月には『うどん

屋・どんぐりCOROCORO』もオープンすることができました。

記者 開設に当たっては町議会でも真剣に討議されたり、設置への抵抗感も少なからずあったと聞きます。最近ではずいぶんと活動が盛んになり、また交流も進み、地域になじんでおられるように思いますが、何人の方がいらっしゃいますか。

田子 現在は主に日野郡内から22人の利用者があり、スタッフは私を含めて12人います。

記者 それで、皆さんはどんなお仕事をなさっているのですか。

田子 手作りの木工・手芸品のほか、クッキーなどを販売しています。また、パンやケーキの販売などもやっています。

記者 私も時々購入しますが、商品の種類もずいぶん豊富になりましたね。作り方はスタッフの人が教えられるんですか。

田子 最初は専門の人の指導を受けましたが、今ではほとんどスタッフが教えています。

記者 そうそう、先ほど、「どんぐりCOROCORO」のお話がありました。ご紹介いただけますか。

田子 「どんぐりCOROCORO」はうどん屋で、根雨中町バス停の下の空き店舗を借りて始めました。隣の部屋は喫茶&ミニギャラリーとして、町内の方の絵画やちぎり絵、写真などのさまざまな作品を、期間を区切っ

て出展していただいています。11月から翌年3月末は「おしどり資料館」として、食事とともに楽しんでいただいています。

記者 そうなんですよ、私もいただきました。「おしどりうどん」おいしくてファンになりました。冬期間は「ほっとブレース」もオシドリ観察の駐車場でなさってるんですよね。

田子 今時分、オシドリ観察に来られる方に、お土産やうどんを喜んでいただいています。皆さんもぜひ、食べてもらえたらと思います。

▼オシドリ観察客を迎える「ほっとブレース」
手作りの商品に心も温かくなる





◀ひと針、ひと針、心を込めて使う人の宝物になれば。丁寧な作業で作上げていく

▶色んな種類の手芸品



記者 ところで、利用者の皆さんは「障害基礎年金」を受給されていると思うんですが、通所の交通費もかなり、景気も悪くて商品の売れ行きなどはどうですか。暮らしぶりはいかがですか。

田子 利用者の方は障害基礎年金を受給されているのですが、それでは経済的な自立には足りませんから、働いて代価を得るシステムが必要で。商品開発と販売ルートの開拓には苦労しますが、商品の製造から販売までが利用者の方の励みになっていますし、社会への参加と自立への一助になればと考えています。

また、一人暮らしや遠距離の利用者の方もおられますので、近くにグループホームも設置しています。
記者 近年は、ずいぶん地域に出かけられる機会が増えているように思います。周囲のまなざしなどはどう感じてもらえますか。

田子 近寄りたいたいの印象をお持ちの方は今もおられるようです。通所には大半の方が交通機関を利用されていますが、ほかのお客さんが席を離れて座られたり、利用者の方を見てヒソヒソ話をされたりなどの体験をされたことがあるように聞いています。

以前の学校教育では就学免除があり、障がい者の中だけで生活し、一般の人との関わりがあまりありませんでした。教育を受けたり、日常生活の常識を学ぶことが少なかった。そのようなことから、電車やバスでのマナーに欠けたり、周りの人に迷惑をかけてしまうこともあるようです。障がいの特性を理解していただき、やさしく論じていただけたらと思います。

記者 一般の人との関わりや、地域社会との交流などが大切とお考えのようですが、具体的にはどんなことが挙げられますか。

田子 手芸が上手な町民の方がボランティアで教えてくださったり、通所支援でサポートを受けたり、逆に、日野ボランティアネットワークで取り組まれている高齢者の方への「誕生月プレゼントづくり」に昨年12月に参加しました。また、10月に開かれた町駅伝大会に参加しましたし、そのほか、町主催のイベントに参加するとかですね。

記者 そういえば、役場庁舎の清掃

もしていただいていますよね。
田子 役場は今年度からさせていたでているのですが、町民の方に活動を見てもらえるんじゃないかと思っています。おしどり荘や日野総合事務所での清掃活動やプランターの花の手入れなどは以前からさせてもらっています。

また、パンの販売も月曜日は日南病院で、火曜日は日野病院でやらせていただいています。

記者 最後に、利用者の皆さんや所長さん、スタッフの皆さんの思いとか願いを聞かせていただけますか。

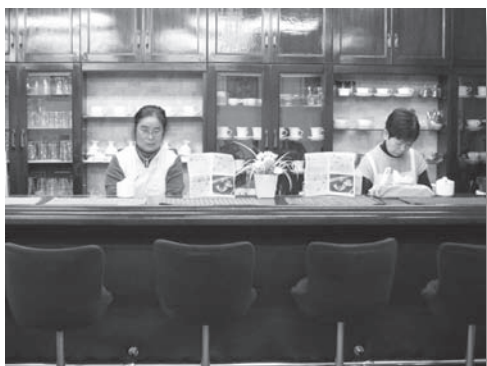
田子 利用者の方々には何はともあれ、毎日楽しんで来てもらえればと思っています。また、それぞれに将来展望が違うので、仕事に就きたいとの希望があれば、心構えであったりスキルを磨いていただく支援をします。また、ここが生きがいになっておられるのであれば、主に作業を通じて仕事をするこの大切さを分かってもらえればと思います。

思いは、障がいがあるうとなかろうと、自分の人生をリアルに実現することだと思っています。地域の皆さんの理解と支えで、私たちの今日があると思っています。

また、「セルフひの」へも気軽に立ち寄っていただければ大変うれしく思います。

記者 お話を伺い、利用者の皆さんともっと理解し合い、ともに地域で

暮らし仲間として交流を深め、地域活動や社会参加を共有することが、これからのまちづくりに大切ではないかと思われました。紙面の都合上、すべてのお話を伺えませんでした。また、いずれの機会にお話の続きを聞かせていただきたいと思います。厳しい寒さが続きますが、元気で頑張っていたくださいと思います。本日はありがとうございました。



◆うどん屋どんぐり COROCORO

▶電話 090 - 3630 - 2170
▶住所 根雨 336 番地 17 (ベンビル 1 階)

◆セルフひの

▶電話 77 - 0018
▶住所 根雨 341 番地 1
(日野町商工会横)